

二〇二二年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 二、この問題冊子は31ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1〜40まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1〜50、選択肢が①〜⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「……く、くにさんって……おい、ちえ子。ちえ子！」

いけない。夫だけは祖父の顔を知っている。マンションのちえ子の机の上には、法被姿の祖父の写真がいつも飾られているのだ。

ちえ子は祖父の背に駆け寄った。夫は柱にすがりつくようにして、細い目をまんまるに瞠みはっている。見る間に膝頭ひざかぶが慄おそえ出した。

「おじいちゃんが来てくれたの。ご挨拶してよ、あなた」

「あ、どうも……来てくれたって、おまえ、どういふことなんだ、どうなってるんだよ」

「お盆だから」

^a夫はその一言で敷居の上あきに尻をついた。気まずい沈黙が座敷に拡ひろがった。東京で婿の非道を責め続けている傲岸ごうがんな身内が、ついに乗りこんで来たのだと誰もが考えたにちがいない。内心はことの是非を知り尽くしている親類たちが、声も出せずに俯うつむくのは当然だ。

祖父は木遣(注)きやりでも唄うように、朗々bと言った。

「これア皆さん、おくつろぎのところ失礼いたしやんす。どうぞお気を遣わず」

人々はまるで関わりを避けるように酒をくみ始めた。

三和土たたくにきちんと靴くつを揃そろえて縁側えんがわに上がると、祖父は柱を抱えて慄おそえる夫の耳元かみかたに屈かがみこんだ。

「——やい、邦男くにお」

「は、はい」

「てめえ、よくも俺の孫娘をコケにしてくれたな」

「いえ……べつに、コケだなんて」

「おめえら寄つてたかつて、黒いものを白だとぬかしやるか。やい、わざわざ遠くから出張^でつてきてるんだ、何とか言え」

「……言えと、いわれたつて」

「あとでじっくりと話し合つてやるが、事と次第^{しでえ}によつちやてめえを連れて帰^{けえ}るぞ。いや、何ならじいもばあも、まとめて面倒みたらうかい」

「そ、そんな。まさか……」

「ふん、造作もねえこつた。東名で車つぶしたろうか。それとも手つとり早くこのお屋敷に火でも出すか、あ？」

とたんに夫は庭先に転げ落ちて、地面にごつごつと額をぶつけた。

「すみません！ 申しわけありませんでした、どうか勘弁して下さい！」

しんと座敷が静まった。祖父は呆然^{ぼうぜん}とする人々をいちど振り返つてから、少し照れ臭そうになつこりと笑つた。

「まあまあ、邦さん。いくらあんたに非があるからつて、大の男がみつともねえ真似^{まね}はしなさんな。仏さんの前じゃねえかい」
やっぱりおじいちゃんは最高だとちえ子は思った。

その夜、東の空がうつすらと白みかかるまで続けられた話し合いの内容を、ちえ子は知らない。

女が泣けば話が進まねえからと、祖父はちえ子を同席させなかった。ちえ子は夜通し庭の縁台に腰を下ろして、仔犬^{こいぬ}と遊んだ。雨戸を閉^たてた座敷からは、男たちの深刻な話し声が洩^もれていた。

ようやく話し合いをおえて、祖父が玄関から出てきたのは、茶畑に真白な霧のかかる朝だった。祖父は疲れ切っていた。

「ちいこ、じいちゃん話つけたからな。もうおめえが、四^dの五の言うんじゃあねえぞ」

よほど揉^もめたのだろうか、誰も送りに出てはこなかった。

祖父は火の消えた迎え火の道を、背広の前をほだけ、ネクタイをくつろげてぶらぶらと歩いた。

「亭主もまんざら悪い男じゃねえんだがなあ。まあ、いかんせん成り行きつてえか、魔が差したつてえのか——とこでおめえ、

まだ野郎に惚ほれてんのかい」

ちえ子は立ち止まって少し考えた。おじいちゃんに嘘うそは言えない。まだ愛していますと言葉にする前に、祖父は俯うつむいて溜息ためいきをついた。

「そうかい。かわいそうになあ。だがよ、ちいこ。邦男の野郎はもうおめえに未練はねえんだと。あの、何て言っただけか——」

「小野香織さん……」

「そう、その若わえ看護婦にぞつこんだ。ま、こんな田舎いなかた大尽だいじんのやるこつた、そのさきどう言っただって始まるめえ。すつぱりと別れてやれ」

意外な結論に、ちえ子はぎよつと顔を上げた。祖父は悲しい目をしていた。

「ひどいよ、そんなの。おじいちゃん、何しにきたのよ。私、何も悪いことなんかしてないもの。こつちから身を引くなんて、納得できないよ」

「身を引くんじゃあねえ。あんなもん、こつちから願ねがい下げだ。銭もビター一文いらねえって言っただけだ。ああ、さつぱりした」私、さつぱりなんかしてない。そんなの、ひどすぎるよ」

母屋に取って返そうとするちえ子の腕を、祖父はしっかりと掴つかんだ。喪服の二の腕に触れた亡霊の手は温かかった。

祖父はちえ子をじつと見つめたまま、強情じやうじやうそうな大口をぶるぶると慄おそわせた。おじいちゃんが泣いている。

「どうしてよ。どうして、おじいちゃんが泣くのよ」

「おめえ、そんなことをおじいに言わせるってか。うらぼんえの幽霊ゆうれいに言わせるってか」

「だって、わかんないもの。おじいちゃんはいつべんもまちがったこと言わなかったし、誰にも負けなかったし。だから私も、ずっと頑張がんばって来られたんだよ」

「そうだ。おめえはよく頑張がんばったなあ」

祖父に死なれてからの日々が、魔物fのようにちえ子の背にのしかかった。苦勞をしたのだと、ちえ子は初めて思った。

「本当はお医者さんになりたかつたんだけど……だから私……」

取り返しのつかない思いがちから夫を愛してしまつたような気がして、ちえ子は祖父の胸にすがりついた。

「すまねえなあ。じいちゃん酒ばつかくらつて、甲斐性がなかつたから」

「ねえ、教えてよおじいちゃん。どうして私が別れなきやいけないの」

祖父は言いためらつた。瘦せた咽が、ちえ子の耳元で風のように鳴つた。

「親のいねえ不憫な子供を、作つちやならねえ。そんなことア、じいちゃんが一番よく知つてる」

返す言葉が見つからずに、ちえ子は祖父の胸の中で泣いた。

「わかつてくれろ、ちいこ。じいちゃん死んじまうときよ、そればつか考えてた。じいちゃんの本気で、おめえひとりを不幸にしちまつた」

「ううん、おじいちゃんは悪くなんかない。悪いのはおとうさんとおかあさんだよ」

祖父はちえ子の肩を起こすと、昔仕事の帰りに必ずそうしてくれたように、大きな掌で頭を撫でてくれた。それから、深い霧に被われた茶畑の畔を振り返つた。

「いけねえ。帰りが遅いもんで出てきやがつた」

霧の彼方にぼんやりと人影が佇んでいた。

「誰なの？」

「このじじい。妙に律義な野郎だよ、てめえにも責任があろうがつて言つたら、かわつてくれた。考えてみりやあの野郎の新盆だつた。すまねえことしたな」

「よろしく言つといてね。私、とても可愛がつてもらつたの」

祖父はにつこりと笑つて踵を返した。長屋門をくぐるるとき、造作を見上げながらフンと鼻で嗤つた。

「ひでえ普請だなあ。田舎大工のやりそうなこつた」

やがて祖父の姿は霧に呑まれた。茶畑の上をぼんやりと流れて行く二つの光の玉に向かつて、ちえ子は手を振った。

その日、夫は一言も口をきかずに東京へ帰ってしまった。

たぶん祖父の写真と位牌の置いてあるマンションには戻ろうとしないだろう。だが、もうそんなことはどうでもよかった。ちえ子の心からは、嘘のように嫉妬が消えていた。

まる一日を、ちえ子はぼんやりと蔵の二階で過ごした。

考えねばならないことはいくらでもあった。慰謝料などあてにしくとも、当面やって行けるだけのへそくりはある。荷物をまとめてとつとと出て行こうか。それともマンションだけは貰っておこうか。

薬剤師の資格は働ぎ口に不自由はないが、離婚をしたからといって長く勤めた薬局をやめる必要はないだろう。

昨日までの **A** が、そっくり **B** にすりかわっていた。まだ三十歳なのだと思った。

うらぼんえの客は、昨夜ほどではないが今日もぼつぼつと続いている。午後になると、まるで腫れ物にさわるように、兄嫁が仕出しの弁当を持ってきた。

「ちえ子さん、あんた送り火はええでね。仕事があるんなら、もう帰ってもええよって、おとうさんが」

兄嫁は梯子段の上り口にちよこんと座って、弁当と茶道具を置いた。

「あたしも、ここでお昼よばれてええかいね」

「ええ、どうぞ。ご一緒しましょうよ」

いかにも食欲の進まぬふうに弁当をつまみながら、兄嫁はしみじみと呟いた。

「ちえ子さん、あんたええ人だねえ」

「そうですか？　でも、赤ちゃんも産めなかつたし、主人のこともあんまりかまってやれなかつたし、やっぱり悪い女ですよ」
箸を置くと、兄嫁はハンカチで臉を押さえた。

「この男衆はみんな頑固いっくだもんで、よう頭も下げんけど、内心はあんたに詫わびてるでね。こらえてやって」

「きのう、ずいぶん揉めたんですか？　うちのおじいちゃんも、とても頑固者だから」

「頑固者？——ちえ子さんのじさまが、かね」

茶を淹いれながら、兄嫁は泣き腫らした目を気怠けだるそうに蔵の天井に向けた。

「ええじさまだいねえ。あたし、見てて気の毒で、気の毒で」

「すごい剣幕だったんでしょ」

「いえいえ。うちの男衆の前にはいつくばってね、ちえ子に至らんとところがあつたらちやんと云つて聞かすで、何とか離縁はせんでくれろ、邦ちゃんに一生添わせてやってくれろって、ぼろぼろ涙こぼしんさつてねえ」

「おじいちゃん、が……」

「もつとも、非は誰がみたつて邦ちゃんにあるんだから、うちの衆は何も言えんわいね。だから余計にいつくになつちやつて、黙りこくるばかり。私はもう、申しわけなくつてさあ。おじいちゃん、朝までそうしてらしたんよ。しまいには声上げて泣きんさつて、お願いします、お願いします、わしはもう二度と再び、みなさんの前には姿を現しませんからつて。一生に一度きりのお願いでございますつて。あたしやもう、うちの衆のだからしらないのと冷たいのには、ほとほと愛想が尽きたわ」

ちえ子は目をきつく閉じて、熱い茶をすすつた。

「おじいちゃん、お酒飲んでました？」

「いいや、酒も飲めん体だからつて。おじいさん、具合悪いかいねえ。顔色もあんまり良くはなかつたけが——ねえ、ちえ子さん。あんたほんにこれでええんかい。あんまり理不尽じゃないかと思うんだけんど」

「いいんです。私、ずっとひとりやってきたし、好きな人と六年も一緒に暮らせたんだから、それでいいんです」
兄嫁はしばらく黙って泣き泣きから、思いついたように言った。

「今晚、浜でおしよろろさん流すつけが、それ見てつたら。花火も上げるし」

「おしよろさん、つて？」

「精靈流しょうりゅうながしだいね。東京にはないんかいねえ」

帰りがてらに、それを見て行こうとちえ子は思った。もしかしたら——もういちどおじいちゃんに会えるかも知れない。

(浅田次郎「うらぼんえ」による)

(注) 木遣……木遣り歌の略。本来は、神木などの建築用木材を運ぶときの労作歌だが、土突きなどの建築工事や祭りの山車だしを引くときの歌なども含まれる。

問一 傍線部 a 「夫はその一言で敷居の上に尻をついた」とあるが、それはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを

一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 お盆の来客を装って訪れたちえ子の祖父を見て、親戚の前で自分の悪行を非難されるときがついに来たと感じたから。
- 2 お盆の時期に、亡くなっているはずのちえ子の祖父が目の前に現れて驚いたから。
- 3 ちえ子の祖父が話をしに来たが、親族はことの是非を知っているため、なんの助けも得られないと感じたから。
- 4 自分の非道な行いを責め続けていたちえ子の祖父が乗りこんで来たから。

問二 傍線部 b・d・h の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は 　 。

b 「朗々と」

- 1 甲高い声で頭にひびくさま
- 2 朴訥ぼくとつとした語り口で淡々と話すさま
- 3 声などが高らかによく聞こえるさま
- 4 抑揚のない一本調子で話すさま

d 「四の五の言う」

1 優しく諭す

2 一つ二つ聞くだけで、その先のことを推測する

3 なんの**かん**のと**嬉**しいことを言う

4 あれこれ文句を言う

h 「踵を返した」

1 返事をした

2 手を振り返した

3 **ほほえ**み返した

4 引き返した

問三

傍線部c「やっぱ**お**じいちゃん**は**最高だとちえ子は思った」とあるが、それはなぜか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 5。

1 ちえ子が言いたかったことを代弁してくれたのでおじいちゃんを呼んでよかったと思ったから。

2 邦男の親族の前でおじいちゃんが邦男を喝破してくれてすっきりしたから。

3 豪快な口ぶりで邦男に詰め寄るおじいちゃんを見て、おじいちゃんは頼れる存在だと再確認したから。

4 昔から喧嘩が強かったおじいちゃんは今でも負け知らずだとわかったから。

問四

傍線部 e 「ちえ子はぎよつと顔を上げた」とあるが、それはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 6。

- 1 自分から身を引くという最も避けたいと思っていた展開になってしまったから。
- 2 邦男をまだ愛していると告白したのに、祖父がその気持ちを汲んでくれなかったことが悔しかったから。
- 3 当然復縁すると思っていたのに、邦男と祖父が協力して離婚を決めてきたから。
- 4 邦男に対する未練がまだあるちえ子にとって、祖父が決めた結論は心の中で期待していたものに反していたから。

問五

傍線部 f 「魔物のようにちえ子の背にのしかかった」とあるが、なにが「魔物のようにちえ子の背にのしかかった」のか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

- 1 これから生きていく未来
- 2 過去の現実
- 3 祖父との再会
- 4 邦男との別れ

問六

傍線部 g 「よろしく言っといてね」とあるが、だれがだれに対して「よろしく」と言っているのか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

- 1 「祖父」が「邦男」に対して
- 2 「祖父」が「自分の祖父」に対して
- 3 「ちえ子」が「邦男の祖父」に対して
- 4 「ちえ子」が「邦男の親類」に対して

問七

空欄 A・B

に入る語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマーク

しなさい。解答番号は 9。

- 1 A 絶望 B 希望
- 2 A 作り話 B 現実
- 3 A 愛情 B 憎しみ
- 4 A 弱々しい少女 B 大人の女性

問八

傍線部 i 「まるで腫れ物にさわるように」とあるが、なぜ兄嫁はちえ子に対して「腫れ物にさわるように」接したか。

次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 邦男を非難するために祖父を連れてきた非常識な嫁だから。
- 2 昨夜の話し合いでずいぶん揉めたことを知っているから。
- 3 邦男に非があるにもかかわらず理不尽に離婚が決まったところだから。
- 4 離婚が決まったので親族というより他人に近い存在だから。

問九

傍線部 j 「ちえ子は目をきつく閉じて、熱い茶をすすった」とあるが、このときのちえ子はどのような思いだったか。

次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11。

- 1 自分の前では威勢のよかった祖父が裏では自分のために頭を下げていたことを知り、胸にこみ上げてくるものがあつた。
- 2 決して頭を下げることのなかつた祖父の意外な行動を知り、祖父の愛情を感じてもういちど祖父に会いたくなくなった。
- 3 祖父がしてくれていたことに気づかず感謝の気持ちを伝えられないままお別れしてしまったことが悲しくなった。
- 4 すごい剣幕で怒っていた祖父が実は邦男の一族に平身低頭していた事実を知り、プライドを傷つけられた。

問一〇 この文章の表現上の特徴について説明したものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12。

- 1 登場人物たちが多くを語らないことで、読者に自由に想像を広げる余白を与えている。
- 2 牧歌的表現を多用してノスタルジーを感じさせつつ、厳しい現実になが揺れ動く主人公の心情を丁寧に描写している。
- 3 心情とリンクした風景の描写を挿入することで、主人公の気持ちを多面的に表現している。
- 4 「お盆だから」、「遠くから出張る」など、二通りの意味にとれる表現を散りばめることで作品に奥行きを与えている。

問題一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

従来の医療は、主に患者を診て病気を診断し治療するのがその目的であり、医師は一人の患者の病気の診断治療をするのがゲンソク^aであった。例外として、産科の場合には、胎児と妊婦の両者を対象として医療を考える必要があった。しかし、最近の先端医療では、体外受精・胚移植^{はい}、遺伝子治療、臓器移植や植物状態など、人間の生命や生き方を医療技術によって操作するようになった。そして、従来の生命観や価値観と衝突するような事例が生じ、それらを反映して医療をめぐる倫理観にも新しい変化が生じてきた。その結果、わが国の医療の倫理には新旧さまざまな考え方が入り交じり、混迷がもたらされているというのが現状であろう。

かつては、その時代の医学・医療のレベルに照らして治せない病気にかかった場合には、「死んでも仕方がない、寿命なんだ」という一種の諦めに似た気持を誰しも多少はもっていたと思われる。A、先端医療技術の進歩により、死に瀕^{ひん}した末期患者を生命維持装置によって脳死が起こるまで生かしておくことができ、脳死が起こった後も期間に限りはあるにしても脳死者の遺体の中で脳以外の臓器や組織を生かし続けることが可能になった。一方、植物状態の患者に対する末期医療における延命治療を中止することによって、患者を自然の状態で心臓死に導き、「尊厳死」とよばれる自然死を遂げさせることも可能になった。

そこで、自分の意思を無視してただ延命させられることを嫌がる患者は、自分にとっては無意味な延命治療を受けることを拒否して「自然の姿で死を迎えられるようにしてほしい」と自分の決めた死に方で死ぬ権利を主張することができるようになってきた。そのような患者の強い意思と希望をいれて、すでに一九七六年にアメリカのカリフォルニア州は、住民が将来に備えて、意識・知能がまだしっかりしている間にそのような意思を法的に有効な形で表明しておき、死亡する前に法的に効力をハッキ^cして延命治療を中止してもらえような「生きている間に発効するいわゆる遺言＝リビング・ウィル」(living will) の法律(「自然死法」)を、世界に先駆けて制定した。それ以来、アメリカの八〇%を超える多くの州で同じような法律が制定されている。

リビング・ウイルのように、知的精神活動に基づく判断能力がある時に、自分の末期状態における処置について前もって医師に遺^gしておく指示を、アメリカでは「生前の意思表示」(advance directives)と法的にソウカツ^dして言っている。

^eわが国では、尊厳死を望む人たちが徐々にふえているが、まだ本格的にリビング・ウイルの法制化をめざす動きはない。ここに見られる日米の差は、意見を個人で決めるよりも周りの人々の意見を気にし和を重んじて意見を決める習慣に従いやすいわが国の国民感情と、個人主義の伝統があり個人の人權や死ぬ権利を尊重する北米の国民感情の違いによるものである。

個人の意思や人權をこれほどまでに尊重しようという北米の国民感情に基づくリビング・ウイルに象徴されるような考え方に對して、わが国では、患者の本人の意思よりも家族の意見がより尊重される社会的状況があるので、北米式のバイオエシックス^(注1)は日本人になじみにくい点が多く、バイオエシックスの影響によって現在のわが国の生命倫理・医療の倫理に少なくとも一時的にはかえって混乱がもたらされているのである。

近年の先端医療の進歩発達によって、医療による人間の生と死の現象への人為的な介入が可能になってきた。その結果、たとえば、生をめぐっては、体外受精・胚移植、男女の生み分け、出生前診断と胎児治療、遺伝子診断と遺伝子治療など、受精や受胎の調節、受精卵や胎児の優生学的処置などを含む人間の出生あるいは生命そのものへの人為的介入^fにかかわる生命倫理面でのケントウ^gの必要性が、新たな大きな問題として浮上してきた。

死をめぐっては、脳死、植物状態、救急医療、末期医療、延命治療、自然死(尊厳死)さらに安楽死、キリスト教を背景とし^(注2)たホスピスや仏教を背景としたビハーラ(サンスクリット語でホスピスにあたる言葉)などに関連して、従来^hなかった価値観に基づく医療の倫理が求められる重要な問題が山積している。

哲学者や宗教学者などの専門家は別として、一般の人は、常識として何となくわかっているようでも今までつきつめて考えてはみなかった「人の死とは何か、生とは何か」という命題を新しい先端医療との関連で考えてみなければならぬ事態に直面して困惑ⁱきみなところもあるかと思われる。

そこでまず、現在の医学・医療の科学的レベルにおいて考えられる人間の死の現象について解説しておきたい。それゆえ、ここでは哲学的、宗教的、法的、社会的な死などについては言及しない。

医師側から死についての医学的定義を提示して、それをそのまま一般社会に人間の死として容認してもらおうと押し付けることが許されないことは自明なことである。一方、一般社会から医師側に、医学の素人が頭の中で考えただけの医学的根拠のない死の定義や臨床的に判定不可能な死を定義して押し付けられても、医師は患者の死を判定することができず、医師としての責務を果たせないのも自明なことである。

B、死とは、意識がなく呼吸が止まり心臓も止まって身体が冷たく目がうつろで全身が動かなくなること、と一般には考えられてきた。もう少し詳しくいえば、呼んでも揺り動かしても全く反応がなく、自発呼吸もなく、心臓の拍動も触れず脈もなく、瞳孔はまったく大きさを変えず、顔の色が悪く生気がなく、体温は下がって冷たくなり、身体の中の部分にも自発運動がない状態が「死んでいる状態」というのが従来の一般的な常識であった。

医学的にいえば、さらに目の反射運動の消失（まぶしい光をあてた時に瞳孔が収縮する対光反射の消失、および角膜表面に毛の先などが触れると目を閉じる角膜反射の消失）を確認することが大切であり、これと心臓停止と自発呼吸停止の三徴候をもって人間の死と臨床的に判定してきた。

この判定には、心電図検査、脳波検査や病理組織学的検査などの、死んでいることを裏づける医学的検査をすることはまったく条件づけられてはおらず、また人の死の決定についての法的要件としては「医師が判定する」ことだけが定められているに過ぎないことに注意していただきたい。

ⁱ 脳死をもって人の死と認めるかどうかの議論の際に「死の判定を医師に任せておくことはできない」という誤解されやすい意見が巷で通用しているが、「死の判定」を医師以外の人がしたら、それこそ医師法違反で犯罪となることを忘れてはならない。

死の判定をするのは医師だけに許された医療行為ではあるが、医師の判定した死を社会的に人の死として容認するかどうかは、

別の問題なのである。医師が医学における学問的価値観に基づいて医療上の理由から患者の死を判定することに歯止めをかけなければならぬという医師不信の気持をもつ人々は「死の判定を医師に任せておくことはできない」という誤解されやすい表現で意見を述べる。しかし、そのような人たちは「医師の判定した死を人の死として受け入れるかどうかを決めるのは、われわれ一般国民であつて医師ではないのだ」といつてほしいものである。このような発言に対してシヨウフクできないという医師はいないであらう。

死亡診断書を書かなければならない医師に影響をおよぼすような人間の死の基準について発言をする人は、医学の素人であつても、人間の死についてのある水準の医学的な知識をもつて考え発言しなければ、議論のための議論に終わり、無意味である以上に迷惑である。「医者じゃないのだから、医学を無視した形而上学的な発言をしようとする自由である」というのは、人が死んでいるのかまだ生きているのかを医学的に議論する場においては、言論の自由の履き違いであり、それは憲法で保証された自由ではなく、独りよがりの身勝手にすぎない。

さて、三徴候による死の判定は、通常「心臓死の判定」と思われているが、実は単に患者の機能死を医師の臨床的な経験から個体死として判定してきているだけであり、心臓の臓器死あるいは器質死(注4)としての心臓死を診断して死を判定しているのではないので、誤解をしないでいただきたい。

(中 略)

人間の死は、臨床的な所見から機能死による個人の死(個体死)をもつて判定するのが社会的慣習であり、臨床的に診断することが不可能な臓器の器質死を患者の死の判定基準kとすることは、いまだかつて世界中のどの国でもなかったものであり、今後も現実的にはありえないことなのである。にもかかわらず、脳死論議では、機能死による個体死に不安や反対の人々が後を絶たない。そして、そういう人たちが、一方では、三徴候での機能死による個体死を人の死として疑いもなく容認しているという矛盾には気がつかないかのようであり、まことに不可思議である。

(星野一正『医療の倫理』による)

(注)

- 1 バイオエシックス……医療や生命科学に関する倫理的・社会的・哲学的・法的问题や、それに関する問題について研究する学問。
- 2 ホスピス……死期の近い患者に対して、残された時間を有意義に過ごし安らかな死を迎えるために援助を行う施設。
- 3 機能死……臓器の機能停止によって起こる死亡。臓器の細胞が死んだわけではないので、細胞レベルでの回復の可能性が絶対には言い切れない状態である。
- 4 器質死……臓器の細胞の死によって起こる死亡。

問一

傍線部 a・c・d・g・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ

選びマークしなさい。解答番号は 13 〽 17 。

a 「ゲンソク」

- 1 旅客機が突然シヨウソクを絶った。
- 2 次世代ソクイ衛星を用いて精度を高める。
- 3 新しい天皇がソクイされた。
- 4 ケイケンソクに基づいて考える。

c 「ハッキ」

- 1 キカ学模様を効果的に使ったデザイン。
- 2 ガソリンはキハツ性が高く危険だ。
- 3 将来、タキに及ぶ分野で仕事をして活躍したい。
- 4 明智が織田にハンキを翻した。

d 「ソウカツ」

- 1 社会保険の財源がコカツすることを防ぐための増税だ。
- 2 これからの日本代表争いはグンユウカツキョの時代となるだろう。
- 3 文章中の強調したい部分にかぎカツコをつける。
- 4 この地域はカンカツ外なので対応できないと言われた。

g 「ケントウ」

- 1 これまでのやり方をトウシユウする。
- 2 心地良い音楽にトウスイする。
- 3 夏野菜の価格がコウトウする。
- 4 腐敗した王政をソウトウする。

j 「シヨウフク」

- 1 裁判員候補者としてシヨウカンされる旨の通知が届いた。
- 2 来週の面談でシヨウダクを得られたらいいなと思います。
- 3 シヨウチヨウ退職者による天下りの斡旋あっせんは禁じるべきだ。
- 4 脱水時は経口補水液を飲むことがシヨウレイされている。

問二 傍線部 b 「人間の生命や生き方を医療技術によつて操作する」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 18。

- 1 先端医療において、最新技術を用いることが最善とされているということ。
- 2 高度な医療を受けられるかどうかが生死を左右するということ。
- 3 人間の生き方を左右する生命観や倫理観が医療技術の発展に伴つて変容させられているということ。
- 4 生命の誕生や死に関わることでさえも当事者の意思に合わせた技術的操作が行われるということ。

問三 空欄 A ・ B に入る語句はなにか。次の 1 ～ 8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。解答番号は 19 ・ 20。

- | | | | |
|--------|------|-------|---------|
| 1 たとえば | 2 一方 | 3 つまり | 4 したがつて |
| 5 ところが | 6 また | 7 さて | 8 あるいは |

問四

傍線部 e 「わが国では、尊厳死を望む人たちが徐々にふえているが、まだ本格的にリビング・ウィルの法制化をめざす動きはない」とあるが、筆者はその理由をどのように考えているか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 21。

- 1 個人の意思を尊重する傾向があるアメリカとは異なり、日本では周りの人や集団の意見に従おうとする傾向があるから。
- 2 本人の意思よりも家族の意思がすべてにおいて優先される社会的状況があるため、家庭内の和を乱したくないという思いが優先するから。
- 3 周りの意見を気にするという国民性があるため、他の人の意見に流されて尊厳死を選んじることが懸念されるから。
- 4 リビング・ウィルの法制化は死ぬ権利を尊重する一面があり、和を重んじて意見を決める日本人にはなじまない拒否してしまう人が多いから。

問五

傍線部 f 「人為的介入」とあるが、生をめぐる「人為的介入」はどのような観点で行われているといえるか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。

- 1 大人と子供がどのように協調できるかという観点。
- 2 大人が望む生活をいかに実現するかという観点。
- 3 子供の将来の幸せのために必要な処置を行うという観点。
- 4 人間としてより能力の高い個体を生み出すための研究という観点。

問六

傍線部 h 「従来なかった価値観に基づく医療の倫理が求められる」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 本人が生活している社会における思想や信条等、広範な分野と関連させて医療の倫理を考えなければならない。
- 2 治療する側が治療される側の考えにどこまで追従できるかをつきつめて考え、医療の倫理を確立しなければならない。
- 3 本人だけでなく家族の考えを含めた社会全体の意思をいかに取り入れるかという点から、これまでの医療の倫理を見直さなければならない。
- 4 哲学や宗教の視点を取り入れて生や死について多面的に捉え、今よりも広い意味での医療の倫理を追求しなければならない。

問七

傍線部 i 「脳死をもって人の死と認めるかどうかの議論」とあるが、この議論についての筆者の考えを説明したものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 24。

- 1 医師の価値観は医学的なものに偏っており市民感情と差があるため、死の判定を医師に任せておくことはできない。
- 2 現在、死の判定は医師にしかできないが、一般国民が死の判定を行うためには医学的知識を身につける必要がある。
- 3 死の判定は医師だけに許された行為であるが、社会は医師が判定した死を受け入れないという選択をすることができる。
- 4 死を判定する行為は医師だけに許されており、医師の判定に関して医学の素人が口を出せる面はない。

問八 次の文は傍線部k「死の判定基準」についての筆者の考えを説明したものである。空欄 I Ⅲ に「機

能死」が入る場合は①、「器質死」が入る場合は②をそれぞれ選びマークしなさい。解答番号は 25 Ⅱ 27。

現在、三徴候による死の判定では I をもって死と判定している。脳死論議ではなにをもって死と判定するか意見が交わされているが、そもそも医学的検査を必要とする II を死の判定基準とすることは世界に例がなく、脳死による死の判定でも III をもって死と判定することが妥当だろうと筆者は考えている。

問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

淡路島に橋がかかる。

そうすれば島は、島でなくなるので、島暮らしを求めてきたわたしはここを出るしかないという意味のことをテレビでしゃべった。

^a 評判は良くなかった。

橋がないばかりに大学進学をあきらめた無念を、わが子に味わせなくてすむという投書が新聞にのったりすると、そういう庶民の素朴な感情にまで異を唱えているようで、なんとも立場が悪い。

架橋に賛成するにしろ、反対するにしろ、それぞれ理由があり、生活権というものがかかっていることはよくわかる。

しかし、本州と淡路島に橋をかけるといふ途方もないコウソウの実現にあたっては、^b ^c 今、^c 生きている人間の利害だけでそれを決めてよいものだろうか。

これほどの大事業が自由経済の社会でおこなわれるということは、島民のくらしが良くなるかどうかという次元のはなしではないことぐらい誰にでもわかるはずで、架橋は日本経済の内需拡大に役立つなどといういわれ方が、その性質をよくものがたっている。

橋を作るのに要する巨額の資本は、橋を利用するものにくれてやるわけでは決してなく、たつぷりな利をつんで回収する計算の中ではじめて動くのだ。

これを庶民の生活の側からみれば、橋を渡って大学に通うわが子の必要経費のあまりの大きさに思わず親は、悲鳴をあげるといふ図式になる。

九州の天草に旅をしたとき、架橋にもっとも熱心だったといわれる観光業者のひとりから、

「当て外れだ。人は車です通りするだけで、金のかわりに交通事故を残していくよ。むかしにくらべて、人の心も荒んだね」

というのを聞いて考えこんだことがある。

目に見える利害もさることながら、われわれがもつとも恐れなくてはならないことは、人の心の変貌へんぼうだろう。

開発につきまとう自然破壊と固有の文化の喪失は金で買ってもどすことはできない。

^d 島の文化は、一言でいえば、あらゆる生命を慈いつくむ文化であろう。

際限もなく文明を発達させ、その恩恵を貪欲どんよくに受けつづけるために、人々は生命を競わせる。都市というものはそうしてできあがっていく。

そこにある生命は孤立化し、その成り立ちの根のところに大きな歪ゆがみを持つに至っているというのに、人々はそれに気づこうとしない。

あらゆる社会悪はそこから起こる。

そのビョウソウeの見える位置が島なのだ。

生命というものは競い、競わせるために存在なんかしていない。

それは、A ものとしてあり、かけがえないものとしてある。

島の文化はそれを教える。島は現代人にとってどうしても必要なものなのだ。

島暮らし七年目だが、わが畑のようすに、やや変化がみられる。

去年かおとし書いたことだが、未熟な、有機質肥料を畑に入れ過ぎて、栄養過多のアルカリ性土壌どじょうにしてしまい、葉菜類やスイカはよくできるけれど、大豆やトウモロコシはさっぱりというぐあいはずっとつづいていた。

ことし、はじめて丸々と B トウモロコシが五十本ばかり、見事に生なった。

春のことだが、それまでできなかったソラマメもよくできた。

土を一メートルばかり掘りおこして、上の土と下の土をよく交ぜあわせたその効果が出たのだ。

土を弱酸性にもどすために、化学肥料も少し使った。

ついでにいうと、あんなにきららっていた農薬も、やっぱり少し使わせてもらった。ブドウのつるに、撒布^{さんぷ}はしないが、筆の先に農薬を溶いた液をつけ、塗ってやったのだ。

おかげで、今、ブドウ棚^{だな}に数えきれないほど、ブドウの房が垂れている。

自然農法、有機農業の旗を下したわけではもちろんないのだが、わたしにすれば、これもまた試行錯誤のうちの一つである。化学肥料や農薬を絶対悪とする考え方に、少し疑問が生じてきた。その考え方と、無定見無制限にそれを使う農業とは、ひよつとして裏腹の關係にあるのではないかと思えてきたのだ。

農業の中には人間の智恵^{ちえ}が多く生かされている。その中には文明の発達によってもたらされた技術もある。

いうまでもないことだが、それによって、わたしたちは恩恵を受けてきた。これは誰も否定することのできない事実である。しかし、そうだからといって文明の発達がすべて、人に幸福をもたらすとは限らない。

チエルノブイリの原発事故がそれをものごたる。

文明は発達させなければならぬだろうが、そのために人は守^fらなくてはならないことがある。

他の生命の存立と尊厳をおかさないとということであり、一方の生命の犠牲の上に成立する幸福は許容してはならないということだろう。

これは理屈としてあるのではなく、日常の生活の中に生かされてはじめて意味を持つ。

島暮らし七年目の農業は、その試行錯誤^gへと、変じてきたようだ。

少しでも化学肥料や農薬を使うとすれば、それをテッテイ^hしてばんきようしなくてはならないし、実際に使用するときには「神さまは、このへんまでは許してくれるかいなあ」

と、自らに対してきびしい吟味が必要となる。

農業はいろいろな意味で

C

ものである。

島の主農産物であるタマネギは、今年二十キロ二千円前後の値がついて、農民にようやく喜色がよみがえった。

去年は最悪で、二十キロ二百四十円だった。この二つの値をくらべてみても、いかに今の農政がでたらめかということがわかるだろう。農民がすき好んで、農業を投機的にしたわけではなく、農民はいわば慢性的に人災を受けているようなものなのだ。

わたしの気のせいかも知れないのだが、村はなんとなく、はなやいでいる。

タマネギは値くずれしないように二日おきに出荷しているが、村の集荷場に集まってくるおひやくしよは用がすんでも帰らないで、いつまでも、しゃべりこんでいたりする。

ビールを買いこんできて、車座になることもある。

それはなかなかいい風景で、わたしがおひやくしよを羨ましく思うひとときだ。おかみさん連中も、たむろしてほんとうによくしゃべる。

あるとき、ぼくがその「畔のおしゃべり」のことについてたずねたら、これでも昔にくらべて、うんと少なくなったんだという。

テレビのせいかなあといったり、それだけ世の中、世知辛くなつたんだよともいうのだった。

このおしゃべりに象徴されるように、経済的なことを別にすれば、職業としての農業がいいなあと思うのは、人の関係に高い低いがないということだ。

だれがえらいわけでもなく、だれにきがねをするわけでもない。

人がみな、いつしよという世界では、こまやかな人情がそのまま生きる。

きのうの夜、ひさしぶりに都会に出た。こんなことがあった。

ワンカップの酒を持って、酔っぱらい氏が遅い電車に乗りこんできた。

映画ファンらしく、だれやかれやに映画の話をしにかけている。

『第三の男』のオーソン・ウエルズ、よかったねえ。友だちを思いやってなんともいえない目をしたる。あれ、おれ、たまんない。きのう、テレビで『ひまわり』をやっただろ。ソフィア・ローレンって、いい女優さんだねえ」

いろいろいうのだが、いうことがみな、はまっているのである。

酔っぱらい氏は、おれは山田洋次に会ったことがあるんだ、と自慢した。話しているうちに、ロケを見にいっただけだとわかるのだが、男にとつてそんなことはどうでもよくて、山田洋次に会ったことが生きがいなのだ。そのときである。

うるさい、いいかげんにしろと怒鳴った男がいた。いっぺんに座がしらけた。

酔っぱらい氏の話はうるさい話では決してなかったと思う。

かつて庶民はこんなではなかった。わたしはひどくさびしかった。

島のが家は、このごろ千客万来である。開けつぱなして仕事をしていると、いろいろな客がやってくる。

アプがいちばんひんぱんで、天井やショウジのさんなどにへばりついて、長逗留ながとまりゆうをする。

家にはいりこんでくる蝶ちようは、クロアゲハとナガサキアゲハが圧倒的に多く、それがどういいうわけかオスばかりで、ガラス戸で出口をもとめて、ぱたぱたしている。とんな感じがする。

(灰谷健次郎『優しさとしての教育』による)

(注) 山田洋次……映画監督・脚本家・演出家。

問一

傍線部 a 「評判は良くなかった」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

1 橋を作ったら島が島でなくなってしまうから反対だという話をしたら、橋を作ることを望む意見が新聞にのるなど、「わたし」の考えに同調する者が少なかったということ。

2 橋を作るならばわたしはここを出るしかないということを話したが、島の人が求めていた内容ではなかったため、反応が少なかったということ。

3 橋がかかることで厳密な意味での島ではなくなるため島を出るということを話したが、話した内容が島民に歓迎されなかったということ。

4 島に橋がかかるならば出ていくことを話したら、島の暮らしに満足していたにもかかわらず、それだけの理由で出ていこうとする変わり身の早さに批判を浴びたということ。

問二

傍線部 b・e・h・jと同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 29 32。

b 「コウソウ」

1 その国境紛争はシヨウコウを保っている。

2 全国大会を前にソウコウ会をする。

3 雑誌をコウドクする。

4 地震に強いコウゾウ。

e 「ピョウソウ」

- 1 プロジェクトの成否は彼女のソウケンにかかっている。
- 2 ミツバチには元々すんでいた場所に戻ってくるキソウ本能がある。
- 3 まだまだエンソウは稚拙だが、人を魅了するなにかをもっている。
- 4 登山で道に迷うことがソウナンの最大の原因と言える。

h 「テツテイ」

- 1 ショシカントツして、子供の頃からの夢を叶えた。かな
- 2 ここはかつてテツコウ業が盛んだった地域だ。
- 3 イギリスのほとんどの地域が規制テツパイの対象となった。
- 4 あの大臣の辞任は事実上のコウテツだと噂うわさされている。

j 「シヨウジ」

- 1 数々のシヨウヘキを乗り越えた。
- 2 シヨウガイ独身を貫いた。
- 3 キヨウシヨウ地は用途が少ない。
- 4 功勞に対してクンシヨウを授ける。

問三

傍線部 c 「今、生きている人間の利害だけでそれを決めてよいものだろうか」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 33。

1 現在島に暮らしている個人の利害という次元で考えるのではなく、島民や日本経済といった大きな範囲で全体の利害を考える必要があるということ。

2 島民のくらしという次元で考えるのではなく、日本経済規模での利害や、さらには自然環境や島の伝統への影響などを多面的、長期的に考える必要があるということ。

3 島でのくらしが便利になるからという単純な理由で決めるのではなく、橋を作るのに必要な資本と橋を作ることのでられる経済効果を計算した上で決める必要があるということ。

4 島に住んでいる人の意見だけを聞いて決めるのではなく、島への観光客や島への移住を考えている人などの意見も取り入れる必要があるということ。

問四

傍線部 d 「島の文化は、一言でいえば、あらゆる生命を慈しむ文化であろう」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 34。

1 島には多くの自然が存在しており、生物の多様性が保たれているということ。

2 島の文化は他の文化からの干渉を受けておらず、独自性を保持しているということ。

3 島に住んでいる人々は優しい心をもっており、都会のような競争や孤立はないということ。

4 島の文化は都市の文化とは違い、生命の調和が大切にされているということ。

問五

空欄

A

B

C

つ選びマークしなさい。解答番号は

35

く

37

。

に入る語句はなにか。次の1く4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ

A 1 いとおしい

2 さもしい

3 くるしい

4 たのしい

B 1 実の瘦せた

2 実の落ちた

3 実の入った

4 実の朽ちた

C 1 人を苦しめる

2 人をかえる

3 人を楽しませる

4 人をきたえる

問六 傍線部 f 「守らなくてはならないこと」とあるが、それはなにか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマ

クしなさい。解答番号は 38。

- 1 すべての生命の幸福を目的として文明を発達させること。
- 2 過去の失敗を教訓として文明を発達させること。
- 3 他の生命に対する影響を考慮し、限度を守って文明を発達させること。
- 4 理屈としてでなく、日常生活に生かされるよう文明を発達させること。

問七 傍線部 g 「試行錯誤」とあるが、筆者の農業での「試行錯誤」の様子はどのような例として取り上げられているか。次

の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

- 1 柔軟に考え方を変えることでうまくいくという例。
- 2 農業は使い方次第では悪いものではないという例。
- 3 文明を適切に利用することで、あらゆる生命を守りながら日常生活を発展させることにつながるという例。
- 4 現代の生活は文明の発達による恩恵を受けることを前提としており、文明の発達を否定することはできないという例。

問八 傍線部 i 「わたしはひどくさびしかった」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを

一つ選びマークしなさい。解答番号は 40。

- 1 酔っぱらった人のふるまいでさえも厳しく咎められるのを目の当たりにし、世知辛いと感じた。
- 2 酔っぱらい氏の話で「うるさい」と一蹴した男や壊れてしまった場の雰囲気を感じ、味気ない世の中になったと思った。
- 3 人々の心が荒みがちで、わずかな嘘も見逃すことが出来ない風潮が嫌になった。
- 4 楽しい酔っぱらい氏の話を楽しいものと受け取れない男に同情し、かつての大らかな庶民の生活が恋しくなった。